リコーダー指導法の模索
――より楽しく参加できる授業をめざして――

浦添市立浦添中学校教諭　仲本朝昭

Ⅰ　主題設定の理由

「天使のリコーダー」「愛らしいリコーダー」「虹色の音のシャワー」「空から降り注ぐ光り輝く音」「澄み切った音色」「素敵なリコーダー」「不思議なリコーダー」……。

リコーダーを語るとき，私が好んで使う言葉である。しかし，食物の豊かで微妙な味の説明や，キャンバスに色鮮やかに描かれた絵の説明と同様，この音色を言葉で説明するのは難しく，実際に音を聴いていただいた方が一番だと思う。他の何物にも代えられない音や響きを持つこの楽器は，一度聴いてしまったら私達を音楽の虜にしてしまう"不思議なリコーダー"だ。リコーダーの特長はこの様な音色面だけではなく他にも数多くある。その中でも，特に教育上の素晴らしい特性について記述すると，

(1)　音を出す原理が簡単で，発音が容易なので音楽表現まで早めに要求できる。

(2)　呼吸・姿勢・スピード感・純正調のハーモニー等，合唱との共通点が非常に多く，音楽表現において関連性を持たせやすい。

(3)　8種類の楽器を2種類の運指で演奏出来るので同族楽器の「ホウル・コンソート」が可能である。リコーダーオーケストラまでも編成出来る。

(4)　リコーダーは400～500年の古い歴史を持つ楽器なので，あらゆる時代の作品の作曲家に触れ対話する事が出来る。

(5)　価格・演奏・管理等いろいろな条件を考えてみると児童生徒や社会人，ひいては老人になってまでも演奏可能な楽器であるので，生涯学習楽器として充分対応できる。

以上がリコーダーの持つ大きな特長である。このような良さが認められ，長い年月にわたり学校現場に導入され，それなりの効果をあげてきたと思う。しかし，実際の授業の場面ではまだまだ，うるさい・楽器を忘れる・上手にならない・集中できない・男女間の演奏の差が激しい・練習しない・選曲が大変・疲れる・指導の方法等，数多くの苦労が伴うように思われる。小学校では指導法の困難さからか，アルトリコーダーの導入をためらっているとも聞くし，中学校においては生徒間の演奏技術の差が大きく，指導上の悩みの種である。どの様な授業形態か，どのような教材を与えるか，評価をどの様にするか，等も大切な要素には違いないが，リコーダーの指導方法も生徒の興味関心を持たせ持続させる上で大きな比重を占めると思う。特に現代の生徒は情報過多の状況にもあり，なお一層の指導技術の向上が求められている。

この様に，リコーダーの特性を踏まえ，生徒の実態に即応し，学校現場で有効に活用できるようにするため，指導方法の工夫と改善が必要だと痛感し，本主題を設定した。

今回は，アルトリコーダーの導入期の指導方法に焦点を絞り，一斉指導を前提に研究を進めることにした。指導教師の負担を軽減出来るような指導方法を模索し，生徒の心に残る音を求め，成人となっても音楽を楽しみ趣味とし，生涯付き合えるような音楽教育を目指し日夜努力したいものである。

Ⅱ　アルトリコーダーの基礎指導

次の様な目的で具体的な指導方法を考えた。

- ○　生徒が興味関心を持って授業に参加出来るように。
- ○　いかに授業に集中させるか。
- ○　各家庭でも自主的に練習出来るように。
- ○　無理なく自然に分かりやすく，そして楽しく基礎をマスターさせる。

1　右手の持ち方

(1)　親指の位置

①　机の上に置いた鉛筆を右手（親指・人差指・中指）で取る。　（写真１）

○　三本の指で三角形を作っていることに気づかせる。

②　リコーダーを①の要領で垂直に持つ。（写真２）

(2)　親指の向き

①　右手で垂直に持ったリコーダーをスーッと下に滑らす。

②　左側の生徒の方に向ける。（写真３）

(3)　指の脱力

①　リコーダーを持っているとき，指が白くならないように気をつける。

②　垂直に持っているリコーダーを教師が上に取り上げる。

○　生徒はリコーダーから指を離さない。

2　左手の持ち方

(1)　親指の向き

①　親指と人差し指で「ミ」の指使いの所を持ってリコーダーを左右に揺らす。

○　45度以上の角度でできるようにする。

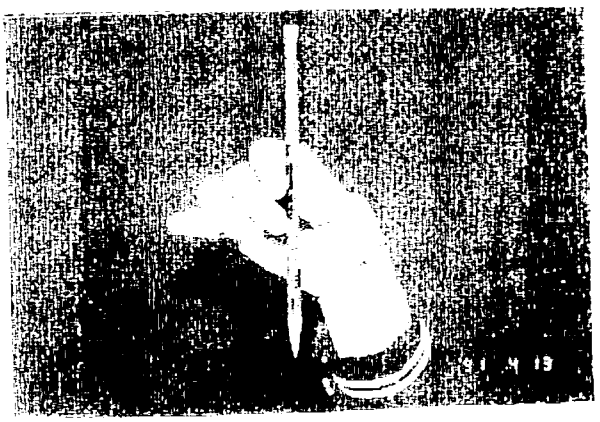
(2)　指の形

①　丸い輪を指で作り，リコーダーを持つ時も同じ形にする。

(3)　手首の形

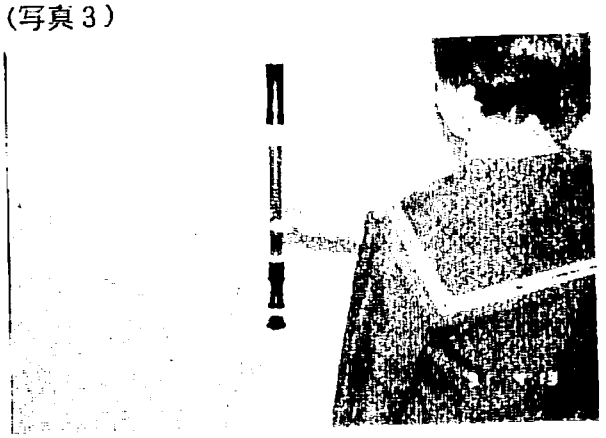
①　オバケの体操をさせる。その時，顔の表情も工夫させる。（134頁参照）

（写真１）



（写真２）

（写真３）



3　両手の持ち方（構え方）

(1)　腕の形

①　フルートを吹く真似をする。（写真４）

②　リコーダーを吹く構えをする。（写真５）

③　リコーダーを膝の上に置く。（写真６）

○　①～③を適当に，順序を変えながらさせる。テンポをだんだん上げていくと面白い。

（写真４）

（写真５）

（写真６）

(2)　リコーダーの角度

①　自分の吐き出す息が手の平にたっぷり当たる角度を探す。（写真７）

②　自分の吐き出す息が指先に当たるようにする。（写真８）

③　右手の親指だけでささえて音を出す。（写真９）

○　滑り落ちない角度にする。

（写真７）

（写真８）

（写真９）

4　正しい座り方（姿勢）

①　前後左右に体が自由に動かせるようにする。

○　柔軟な音楽・リラックス

②　腰を伸ばす。

○　ブレスがしやすい。

③　尻に力を入れない。

○　脱力

5　吹き方（音の出し方）

(1)　アンブッシャー

①　右手（親・人差・中）だけで垂直に持つ。

②　唇に軽くのせる。

③　人差し指と中指を約2㎝程はなす。

④　そのままの状態でおしゃべりをしてみる。

(2)　口，顔の脱力。音の切り方

①　上記の④の次に，トットットッと，口を開けながら短い音を出す。　（写真10）

（写真10）

(3)　きれいな音の作り方

①　息をフーッとはく。（写真11）

○　ほおの力を完全に抜いたままで行う。

②　右手の人差し指と親指で唇を軽くつまんで息を出す。（以下息は①の要領で。）（写真12）

③　右手の人差し指でシーッというように，唇を押さえて息を出す。（写真13）

④　右手の親指を唇に軽くのせて吹く真似をする。（写真14）

⑤　実際に「ミ」の音を出す。（写真15）

○　上の①～⑤をハンドサインで練習する。（サインのテンポを変えて練習する）

（写真11）

（写真12）

（写真13）

(写真14)

(写真15)

(4) タンギング

① 言葉の中から発音に向いたものをさがす。

○ トーフ，トーキヨー，トーサン，トースト，トラック，トンカツ，トンネル，トマト，トット，トットリ，オットットッ……など。

○ 上の要領で，基本的には「トォー」と発音させる。

(5) のどの開け方

① あたたかい息を出す。（写真16）

② 左手で輪を作り，それに唇を合わせ，口を大きく開けて息を出す。（写真17）

③ 静かに息をだしながら，小さな声を出す。

④ 右手の親指のつめを下にして口のなかに入れ，息を吸ったりはいたりする。（写真18）

⑤ 口をうんと横に引っ張って，逆に咽を締めてみる。

(写真16)

(写真17)

(写真18)

6 呼吸法，ブレスコントロール

(1) ストローを使う。

① B5ザラシを八つ切りにする。

② すべらない壁（黒板など）にその紙をくっつける。

③ 給食用のストローを使って，落ちないように息を当てる。（写真19）

(2) 口だけで

① 上記の方法でストローなしで練習。

(写真19)

② 紙を漸次大きいものに変える。

(3) A 4 白紙を使う。

① 両手で紙の上のほうの両端を軽くつかむ。

② 紙の下のほうが口の前にくるようにする。

○ 口と紙は，約20cm離す。

③ 息を紙に当て，一定の角度で動かないようにする。（写真20）

（写真20）

(4) チリ袋を使う。

① チリ袋に息を入れ，何回でいっぱいになったか勝負する。（写真21）

○ いっぱいになる時間も勝負する。

(5) ローソクを使う

① ローソクに火をつけて立て，1 m 50cm程離れたところから息を吹きかけて消す。

○ 短い息だと消えにくい。（写真22）

② 30cm～50cmに近づき，今度は炎が消えないように息を当てる。（写真23）

（写真21）

（写真22）

（写真23）

(6) 犬の呼吸をまねる。

① 肩の力を抜いて犬が走ってきたときのように，ハーッ，ハーッ，ハーッ，と呼吸する。

○ ややもすると，息を吐くことだけに気を使っているので，吸うことも同様にさせる。

○ オーバーに，激しくさせる。

7 腹筋の使い方

① セキの真似をする。

② シャックリの真似をする。

③ ローソクの炎を消す要領で。

④ お腹を押し下げるつもりで。

8 ボールを使ったリズム．腹式の練習

① 手をたたく。（はずむ感じで）

② 空中に投げたボールを，取るとき手をたたく。

③ 空中に投げたボールが落ちてくる瞬間に手をたたく。

④ 上記の②～③の両方手をたたく。

⑤ ボールが床にはずむとき手をたたく。

○ アチェレランド

⑥ ①～⑤の手のかわりに息を吸う。

⑦ 拍手と息を同時にする。

⑧ いろいろとバリエーションを考える。

9 サミングの練習

① 左手をにぎる。

② 親指だけを立てる。（写真24）

③ 第一関節を軽く曲げたり伸ばしたりする。（写真25）

④ 上の①～③をくり返す。

（写真24）

（写真25）

10 いろいろな体操

(1) 腕の体操

① ひじを伸ばし，リコーダーを両手で逆手に持つ。（写真26）

② 右手を中にねじこむ。（写真27）

③ 左手も同様にする。（写真28）

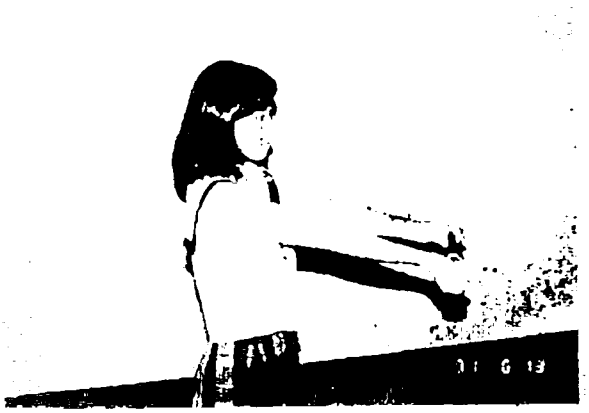
④ 左手を元に戻す。

⑤ 右手も戻す。

⑥ ①～⑤を数十回繰り返す。

○ 腕を柔軟にする。

（写真26）



(写真27)

(写真28)

(2) オバケの体操

① 両手をダランと前に出す。（写真29）

② 両手首を向かい合わせる。（写真30）

③ 右手を下，左手を上にする。（写真31）

○ 手首の脱力

○ 右手と左手の位置の関係を教える。

(写真29)

(写真30)

(写真31)

(3) 肩の体操

① 普通の状態で立つ。（写真32）

② 右肩を上げる。（写真33）

③ 右肩はそのままで次に左肩を上げる。（写真34）

④ ②～③を繰り返していって，これ以上あがらないようになるまで続ける。

⑤ 両肩を同時にストンと落とす。

○ 正しい姿勢

○ 呼吸法への関連

(写真32)

(写真33)

(写真34)

(4) 指の体操

① 右手（親・人・中）三本で垂直に持って，中指でたたいて音を出す。

② 右手（親・人・中・薬）四本で垂直に持ち，薬指でたたいて音を出す。

③ 右手の指五本全部で持って，小指でたたいて音を出す。次は薬指，中指と，同じようにやってみる。

○ 小指がリコーダから離れている場合が多いので気をつける。

④ 右手の指五本全部で持って，小指と薬指を交互に動かす。
次は，薬指と中指を同じように動かす。

⑤ 両手全部で持って，右手中指と小指を同時に動かす。
次は，中指と小指をセットにして，薬指と交互に動かす。

⑥ 左手人差し指と親指で持って，中指でたたいて音を出す。

⑦ 左手人差し指，親指，中指で持って，薬指でたたいて音を出す。

⑧ 左手四本で持って，中指と薬指を交互に動かす。

⑨ 両手で持ち，左手中指だけを動かす。
次は，人差し指と薬指を同時に動かす。さらに，中指と交互に動かす。

○ 指の柔軟性

○ 運指を覚える

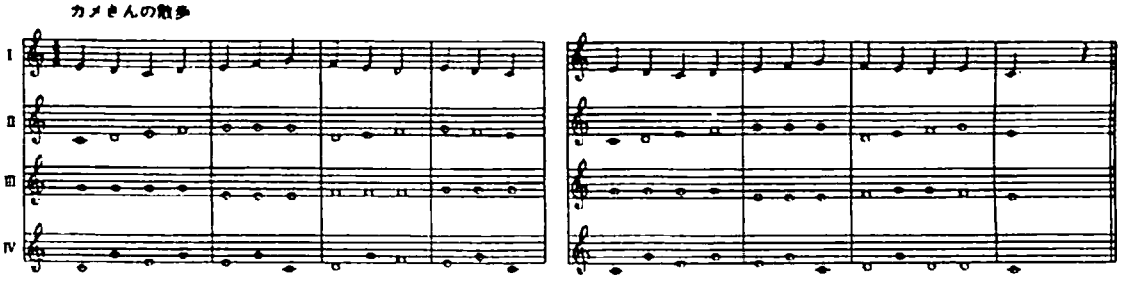
11　使用曲（基礎練習中心）

(1)　左手の練習

○　ちょうちょう・ブンブンブン・カノン・カッコー

○　カメさんの散歩（譜例１）

（譜例一）



※Ⅰ～Ⅳのすべてのパートは最初は全音符で記譜する。
音と楽譜になれてきたら，だんだん実際の記譜に直す。
※アレンジしながら，そして黒板に記譜しながらの授業なので，
音は適当に変わる。（Ⅱ－Ⅳパート）

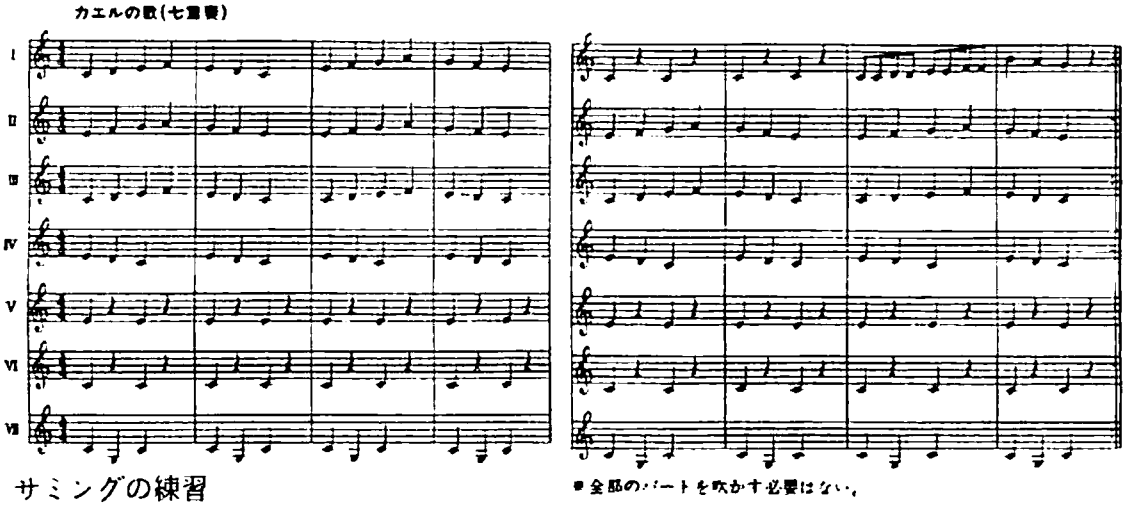
(2)　右手の練習

○　(1)に同じ

(3)　音階，ハーモニー練習

○　ちょうちょう・カエルの合唱（譜例２）・ドローン

（譜例二）



※全部のパートを吹かす必要はない。

(4)　サミングの練習

○　キラキラ星・カエルの合唱・若者たち・救急車（譜例３）・与作

（譜例三）

(5)　スタッカート，指の練習

○　ブンブンブン

(6)　奏法，リズム練習

○　ちょうちょう・キラキラ星・カエルの合唱

(7)　三重奏の曲（ＡⅠ＋ＡⅡ＋ＡⅢ）

○　メヌエット・てぃんさぐぬ花）

(8)　四重奏の曲（Ｓ＋Ａ＋Ｔ＋Ｂ）

○　エチュードⅠ・ジンジン・赤田首里殿内

Ⅲ　アルトリコーダー導入期における授業計画

時間は大体の目安であるし，クラスの実態に合わせて組合せが変わる。指導内容のはっきりした切れ目は無い。生徒は，主に教師の指使いを見ながらの学習で，一斉指導中心の学習形態になる。

1時間目…諸注意と説明。この時間に基本的生活習慣の躾，授業の年間計画，音楽教室の使い方等の説明を行う。

2時間目…リズム遊びを中心に行う。お互いの心やリズム等を合わせることの大切さ，リラックスする気持ち，音楽の授業の気軽さ・楽しさ，教師に集中することなどの意識を知らず知らずのうちに持たせる。

(1)　鍵束（いつも持っているから）を使った遊び方

①　投げ上げた鍵束が落ちてきて，キャッチする瞬間に手を叩く。次は，上で止まっている瞬間，そして，二か所で手を叩くなどと，バリエーションを作っていく。

②　上記の①の手拍子の代わりに息を使う。更に息と手拍子を同時にやるなどの工夫をする。男女別々のことをさせても面白い。

(2)　拍子感が身につく遊び

①　教師が四拍たたいた後に生徒は一回だけ手を叩く。なんでもないことだけど以外と難しい。2～12拍迄，テンポや順序を変えながら行う。生徒はかならずノッて来る。教師は合図をする時2拍子系，3拍子系，4拍子系等と叩き分けること。

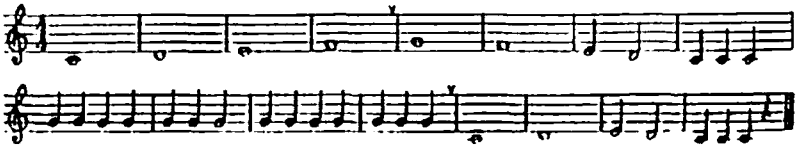
②　メトロノームを使い，指定した拍の後に手を叩く。生徒は自分で数えないといけない。勿論，メトロノームのテンポは常に変える。

3時間目…注文していたリコーダーが揃うので楽器を使った授業に入る。

(1)　吹き方，持ち方等が不揃いなので，良い奏法，姿勢に気づかせる。

(2)　いろいろな吹き方を練習してみて，どの様な音がきれいか見つけさせる。

(3)　「ちょうちょう」の2番パートと，左手の練習。ハーモニーを常に意識させる。



4時間目

(1)　「ちょうちょう」の一番パート練習と二重奏。

(2)　「カメさんの散歩」の練習。

(3)　「タンギング」の練習。

(4)　ドローンを使った運指の練習。ハーモニーを大切に。

5時間目

(1)　読譜練習を兼ねた「カメさんの散歩」四重奏［136頁譜例1］

(2)　曲の最後の音の取り方の練習。口をパッと開ける奏法を教える。口を開けるので生徒は騒ぐわけにいかない。

6時間目

(1) 8～10名で向かい合って一つの輪を作り，「ちょうちょう」の曲の練習。一人で二小節だけ吹いて次の生徒にバトンタッチをする。8名で1曲が終わる。お互いで教え合う。前員の前でグループ発表。

(2) 「ぶんぶんぶん」の練習。

7時間目

リコーダーのテスト。吹くのではなく，指で叩いて音を出す。テストに対する抵抗感を取り除く目的もある。出来なかった生徒はあとで受け直してもよい。

8時間目

今までのまとめ。生徒はどのような内容が習いたいのかよく観察する。

9時間目

(1) サミングの指導を始める。

(2) 「カエルの合唱」七重奏〔136頁譜例2〕

10時間目

(1) 「キラキラ星」の練習。

(2) 「フレールジャック」の練習。

(3) 「カエルの合唱」と「フレールジャック」を同時に合奏する。

11時間目

「カエルの合唱」「キラキラ星」のテスト。サミングの技術向上が目的。サミングの部分的なテスト。

12時間目

(1) 「フレールジャック」のテスト。

(2) 今までの総合的なまとめ。

以上，授業の流れをごく簡単に書き出してみた。要は授業をする教師本人の個性が大切ではないだろうか。"豊かな情操の育成"において，生徒たちに名画を鑑賞させることも大いなる価値があると思う。タイムマシンに乗って夢の世界や，理想の世界などを散歩することが出来るのである。「未完成交響楽」「美しく青きドナウ」「サウンドオブミュージック」「アマデウス」他，生徒たちに深い感動を与える。

常にあらゆるものに興味を抱き，情報を集め，消化吸収することも大事だと思う。授業を行う上でどれがより効果的な指導が出来るのか，自己の感覚を鋭く磨ぎすまし，独自の指導法として身につけることが必要ではないだろうか。各地で各種の講習会が行われているが，積極的に参加することも貴重な機会だと思う。生徒たちが学習活動を通して体験した感動は，他の経験と共に一人一人の心のなかでゆっくりと温められ，成人になってきっと立派に花開くものと固く信じる。

Ⅳ 授業におけるリコーダー指導の留意点

(1) うるさくならないようにする。

○ 集中することは静かになること，静かになることは教師の発問を良く聞くことで，授業の能率の向上につながる。

(2) 見ていないと出来ないようにし，教師に集中させる。

○ 運指，吹き方等は勿論，先生の顔色までも分かるようにさせる。教師を見ていないと出来ないように仕向ける。

(3) 常に変化のある授業を心掛け，飽きさせないようにする。

○ クラスによっても，曜日によっても生徒は変化するので，教師はいろいろな指導の方法を持ち，その場の雰囲気に合わせた指導が出来るように心掛ける。一つの内容でも多様な指導方法を持つ教師が，生徒の実態に対応した授業を作り上げることが出来る。

(4) 一時間の授業をやりぬいた満足感を与え，次の時間に対するやる気を作る。

○ "時間割りに組まれているから授業にくるのである。"という発想も必要ではないだろうか。生徒にとって無理のない内容や，ややハイレベルの内容等を適当に織り混ぜて，次への期待感につなぐ。

(5) 教師は大声を出さなくても授業が出来るようにする。

○ 常に大きな声を出していたら，それに慣れて鈍感になってしまう。日頃から静かな声，音に慣れさせる。音楽は綺麗な音を大切にしたい。

(6) 楽しく授業が受けられるようにする。

○ 生徒に無駄な苦しみを与えない。指導の手順をはっきりしておき，余り無理な要求をしない。段階を踏んだ指導方法を開発し，融通の効く指導をすべきだと思う。

(7) 吹けないからといって叱らない。（叱るべきは，練習を真面目にしない人）

○ 中学校に入学してきた時のレベル差は大きい。（特に男子と女子）下手な生徒は，いちいち叱られていたのでは身も心も持たない。叱るよりは誉めることを。

(8) リコーダーを忘れても余り叱らない。貸してあげる。

○ 叱るのも大切だが，優しさも忘れずに。真心で付き合えば，お互いの気持ちも分かるものである。

(9) 常に誉めてあげ，自信を持たせる。

○ お世辞でもいいから誉められてうれしくない生徒はいない。誉める方法はいくらでもあると思う。生徒個人でも，合唱の時のパート，その学級等，その気になれば全てが誉める材料である。

(10) 上達度の違う，どの生徒も飽きさせないように，教材の工夫を図る。（習熟度別学習）

○ 常に，一つの曲を何パートかに分ける。自分の力に合ったパートを選ばせ，しかも，ハーモニーも味わわせる。全体の中の一人としての責任感も養う。自分の意志を持って授業に参加するので，積極的になれる。

(11) 常に，優しさと厳しさを以て指導にあたる。

○ 教師の一言一言が道徳指導にもつながるので，人間教育としての音楽も忘れずに，誉める

べき時は誉め，叱るべき時は叱り，教師に間違いがある場合には素直に謝り，教師自体の言動が一致するように心掛け，生徒に信頼されるように気をつけたいものである。

(12) 個人のチェックをしっかりとやる。

○ 集団の中での個人はおろそかになりがちである。全体では上手なように聞こえても，出来ていない場合が多い。個人々がしっかりしている集合体の合奏は，教師の予想をはるかに越えた素晴らしい演奏が期待できる。個人を見つめてあげる意味からも個人の指導は大切である。

(13) たくさんの要求を一度にしない。

○ 教師はたくさんのことを知っているが，生徒はそうではない。無知の状態から一つ一つ積み重ねる作業をしているのだから一度にいろいろな事を求めるのには無理がある。生徒がどのようなことを必要としているのかを，良く見極めながら課題を与える。

(14) 吹ける喜び，吹けた喜びを与えるようにする。

○ 学習の基本は，出来ないことが出来たうれしさ，わからなかったことがわかるうれしさ，にあると思う。どのような生徒にもその喜びが加わえるようにさせたい。次の学習への出発点になる。

(15) 友達どうし協力し，教え合うようにさせる。

○ 音楽（ハーモニー）自体，仲間がいるからこそ作れるものである。お互い助け合い，教え合って一つの物を作り上げていくのである。教師と生徒の縦の関係も大事だけど，生徒同志の横の関係も劣らず大事。

(16) 基礎練習よりも吹きたい気持ち・吹きたい曲を大切に。

○ 運指を覚えたから曲が吹きたいのではなく，曲が吹きたいから運指を習いたいのである。スタッカートを習ったから曲に応用したいのではなく，曲の表現をしたいから奏法を習いたいのである。演奏の手助けの為の基礎であり，それ自体が目的では決してない。基礎練習だけに明け暮れていては，生徒は楽しいはずがない。

(17) 見るべきか，聞くべきか，吹くべきかのけじめをつけさせる。

○ 自分勝手なことをするばかりのクラスは，能率の上がらない学習をすることになる。教師の説明を聞かなければ教師は必要ない。生徒だけでは出来ないものがあるからこそ，教師の存在価値がある。

(18) 立ったり，座ったり，足踏みをしたり，横を向いたり等の，簡単な体の動きを取り入れ，授業に変化を持たす。

○ リトミックとは言えないかも知れないが，単純なことでも以外と生徒は喜ぶ。もちろんリズム感等の育成などの目的もある。

(19) 音に集中させるため，目をつぶって吹く練習もさせる。

○ 教室のなかに静けさを作る。美術で言えば何も描かれていないキャンバスに相当する。ここに，自分たちの好みに合わせた音の色を塗っていく。

(20) いちいち教師が拍子をとらないで，自分たちの音楽を聴きながら合わすようにさせる。

○ お互いに聞き合わないといけないことはいくらでもある。ピッチ，リズム，ハーモニー，

音量，音色，響き，スピード感，タンギング，フレーズ，ブレス，シラブル，奏法，バランス，テンポ……。生徒の感覚を磨ぎすまさなければならない。

(21) 初期の段階での読譜指導は重視しない。（特にリズム）

○ 生徒は読譜に抵抗があるようである。特に楽譜からリズムを読み取ることは難しい。読譜指導の場合にも，ハーモニーが自然に出来るように，何パートかに分ける工夫が必要である。常にハーモニーにたっぷりとつかった授業にしたい。

(22) 発音の方法（シラブル）を揃える。

○ 基本的には，「トォー」と発音させる。息の量，幅，スピード等を考えるとこれが適当だと思われる。乱雑に積まれた本と，サイズと形別に分類し，きれいに並べられた本程度の違いがある。本自体は変わらないが……。

(23) 一斉指導，個人別指導，自主的な学習活動等，いろいろな形態の授業をし，変化を持たす。

○ 生徒個人，パート，学級と各々個性が違う。ワンパターンの学習形態ではそれぞれに対応できない。

(24) ハーモニーを大切に。

○ リコーダーの素晴らしさは数えきれないほどあるが，心をうっとりとさせる透き通った音色と，空から降ってくるような輝くハーモニーが誰にも否定できない大きな特徴である。特に，純正調のハーモニーは素晴らしい。

(25) 出来るだけ教師が吹いて聞かせ，良い音・演奏を真似させる。

○ 百見は，一聞にしかず。生徒の感覚は鋭いものがある。特に歳が若いほどそれを感じる。感覚に訴える指導法も必要。

(26) 基本的生活習慣のしつけをしっかりとする。

○ 上履きをきれいに並べる，遅刻をしない，教室で暴れらい，勝手に備品をいじらない，お辞儀をしっかりとする，手ははっきりと挙げる，忘れ物をしない，鐘が鳴ると同時に授業を始める，リコーダーは始めるまでに組み立てて準備をしておく，等の授業以前の問題を解決しておく。これが出来ずして，授業の時教師に集中させようとするのは無理がある。

(27) 音合わせには，あまり神経を使わない。（正しい吹き方が大切）

○ 音が合うにはいろいろな要素が必要でそう簡単にいくものではない。音を合わす感覚は必要だが，それだけにこだわってはいけない。その必要性は，重奏の学習の時教えたほうが効果的と思われる。

(28) いつでもきれいな音を要求する。

○ リコーダーはきれいな音が命。雑音発生機にならないように気をつける。

(29) 教師の声をいつでも聞くように仕向ける。（聞いていたら得をするように）

○ 休憩していいかな？してもいい人は手を挙げてごらん。2～3名でも手を挙げなければ授業続行。

(30) 君達が好きだよと言う気持ちを常に持ち，言動に現わす。

○ もう少し君達と居たいけど終わりの鐘が鳴ったからもう終わろうね。これだけ言うだけで生徒のやる気はグッと変わる。

(31) 教え・育て・はぐくむ・豊かな心を忘れずに。

○ 焦らず，ゆっくりと。常に長い目で生徒を見つめ，結果を性急に期待しない。要は大人になったとき社会にどう尽くすかである。「教え」「育てる」ことが教育である。

(32) 生徒の人格を大切に。

○ 紳士，淑女として扱うことも大切。ややもすると叱りつける事もあるが，それだけではいけない。立派な個性を持った生徒として付き合うようにしたい。

(33) 生徒に対する視線を大切に。

○ 一時間の授業のうちで，生徒各個人最低一回は視線が合うように気をつける。それだけでも生徒は教師に教えてもらったという満足感を感じ，授業に来て良かったと思う。それが次の授業の期待や意欲につながる。

(34) 曲に対する表現のイメージを膨らます。

○ 生活経験の少ない生徒たちなので，「沖縄の海はきれいだね」「花畑で吹いてごらん」「ボールが弾むように」等の，理解しやすい言葉でイメージを作らさせる。この様な指導上の語彙集はとても必要なものの一つである。

(35) テストも授業の延長として扱い，その目的により方法を変える。次の各種の方法が考えられる。

① 個人の演奏レベルをチェックして，指導の参考にする。

○ グループを組んだり，その学級の演奏レベルを知りたい場合などに必要。どの様な指導をしたら良いのかを決める場合の資料にもなる。

② 演奏技術の向上が目的で，何回受けても良い。

○ テストを行う場が，指導の場にもなるわけである。その個人に合った指導の絶好の機会でもある。

③ 積極性と自主性を持たすため，自分から受けにくる。

○ テストを受けに来ないと点数はもらえないわけである。生徒は自分自身に責任を持たないといけない。

④ 演奏会の雰囲気を味わうために，全員の前で発表する。

○ "ミニコンサート"の形式で行う。司会を置き，黒板にはプログラムを板書し，拍手もある。その場で，演奏会のマナーを指導する。

⑤ お互い教え合い，助け合うためのパートごとのテスト。

○ 1曲を数名でバトンリレーの様に吹いたり，パートごとにテストをしたりで，お互いで教え合うように仕向ける。

⑥ 一発勝負のテストで，厳しさや緊張感を味わわす。

○ 間違ってもやり直しはさせない。

⑦ 曲の一部分のテストで，運指の困難な場所や大切なフレーズの意識をさせる。

○ サミング・フレーズ・難しい運指等，音楽表現で大切な場所などを意識させる。

V　曲を使った基礎練習の工夫

基礎練習にはいろいろな内容がある。

(1)　安定した息の出し方と音程（チューニングを含む）

(2)　発音のしかた（シラブル）

(3)　全音符・2分音符・4分音符・8分音符等の各種の音符に慣れる（読譜）

(4)　左手を使ったド・レ・ミ・ファ・ソの音に加えて低いシ・ラ・ソやサミングの高い音域の練習

(5)　純正調の為の音楽

(6)　3度のハーモニーを味わう

(7)　奏法の工夫

(8)　音程や音色の意識

(9)　バランス感覚

(10)　縦のリズムを揃える

(11)　音階練習

(12)　トリル

(13)　オブリガート

(14)　ダブルタンギング

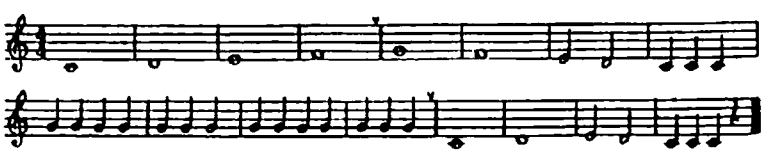
(15)　スピード感

(16)　半音階等……。

これら全ての事を1曲を使って出来ないかと工夫してみた。同じ曲の方が変化の様子が良く分かるからである。その結果「変奏曲」の形に落ち着いた。本来はＡⅠ＋ＡⅡ＋ＡⅢのアルトリコーダーの3重奏だが，紙面の都合上今回は各種の旋律だけ抜き出してみた。どの曲もハーモニーが同じなので，どの番号とでも演奏出来るはずである。

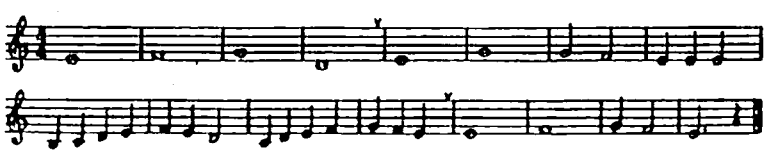
(1)　左手の練習……全音符と4分音符の読譜，音階，ユニゾンでの音合わせの練習にもなる。

楽譜①



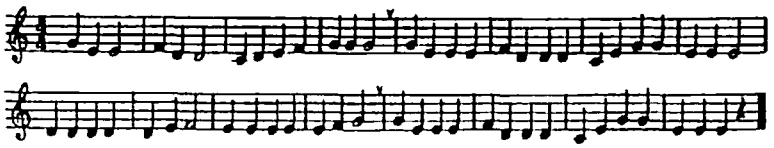
(2)　3度のハーモニー練習……楽譜①と一緒に演奏する。安定した息を送り，全音符をしっかりつなぐこと。低いシの音が新しく出てくる。

楽譜②



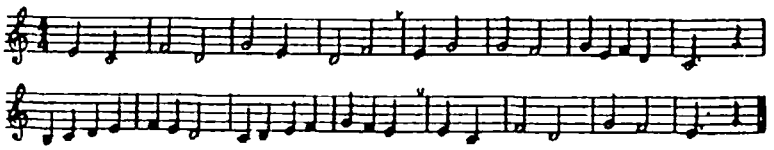
(3)　4分音符の読譜練習……楽譜①とで純正調のハーモニーの練習が出来る。音を良く聞き合うことが大切である。

楽譜③

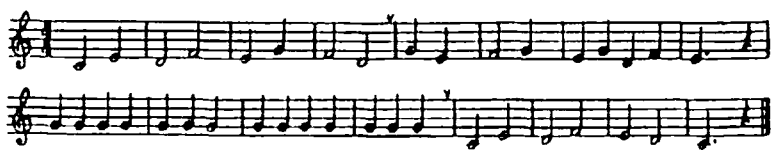


(4)　2分音符の練習…音色が悪くならないように，音がかすれたり歪んだりしないように。安定した響きを意識する。楽譜③，④，⑤を一緒に演奏する。リズムや奏法も工夫すること。

楽譜④

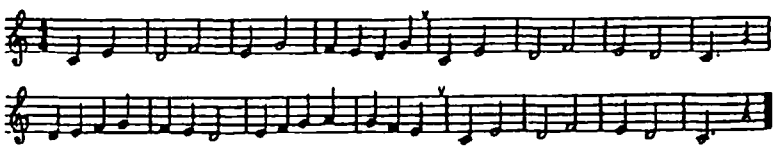


楽譜⑤



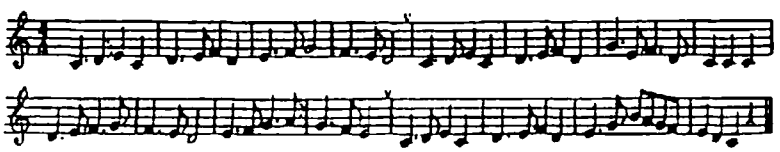
(5)　サミングの練習……左手の親指に注意。横幅が1㎜～2㎜程度の細い三日月を作る。サミングを使う「ラ」の音が新しく出てくる。

楽譜⑥



(6)　付点4分音符の練習……テンポが遅れないように，サミングの「シ」が出てくる。

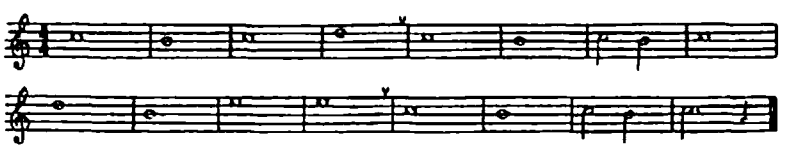
楽譜⑦



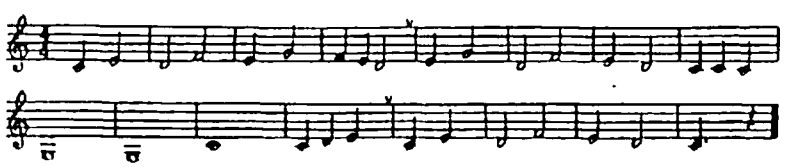
(7)　縦のリズムを揃える……楽譜③，⑥，⑦の3重奏。ブレスを意識すること。

(8)　高音域と低音域の練習……発音の仕方（シラブル）の工夫をすること。楽譜⑧ではトゥー，楽譜⑨ではトォー・ロォー等はどうだろうか。楽譜③も一緒に演奏すること。

楽譜⑧

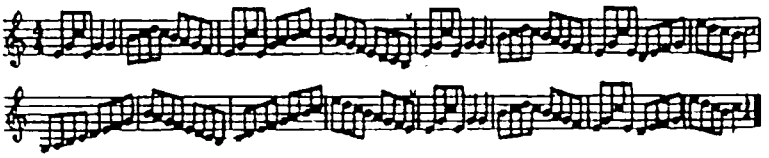


楽譜⑨

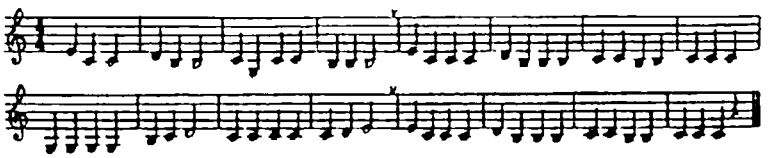


(9)　8分音符・音階練習…舌の動きが固くならないようにすること。楽譜③も一緒に吹く。

楽譜⑩

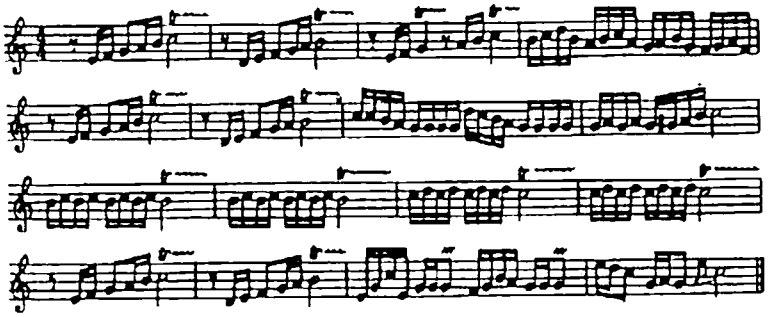


楽譜⑪

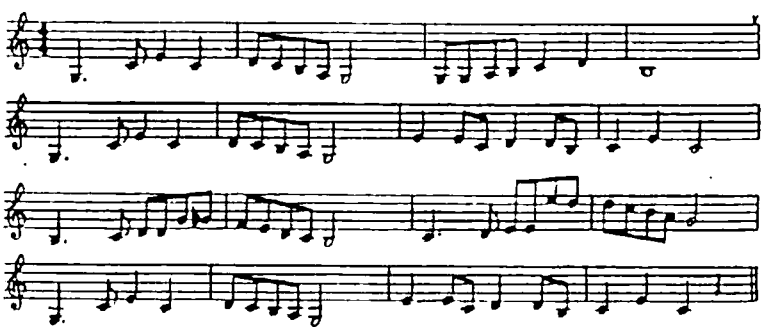


(10)　オブリガート・トリル・ダブルタンギング・運指練習……楽譜③も一緒に演奏すること。

楽譜⑫



楽譜⑬



自分の好みの曲を探して，基礎練習に使ってみるのも楽しいことだと思う。①音域，②音の動き，③旋律等に気をつければ結構探せるものである。カノンは同じハーモニーの中で旋律が動くので，いろいろな工夫が出来る。

Ⅵ 研究の成果と今後の課題

今回の研究を通しての全体的なまとめをしてみたい。発表は4つの章に分けた。①アルトリコーダーの具体的な指導方法，②授業計画，③授業上の留意点，④楽曲を通しての指導である。

第1章は基礎指導に重点を置き，出来るだけ具体的な内容を記載した。一つの内容を指導する場合でも，出来るだけたくさんの方法を考えた。何故なら，その方が生徒の実態に合った，融通の効く指導が出来ると考えたからである。生徒は日によっても或いは時間によっても様子が変化する。決まり切った一つだけの指導では生徒はついてこない。その点，この指導方法は成功したように思われる。ア）生徒の集中の度合いがよくなった。イ）演奏技術も短時間で向上した。ウ）顔の表情が明るくなった。エ）積極的に学習するようになった。オ）生徒同志で教え合うようになった。カ）忘れ物が少なくなった等の反応が伺えたからである。

第2章は各時間の指導案なども掲載しもう少し奥の深い研究にしたかったが完成出来なかった。次への課題の一つである。「きれいな音の追求」や「生徒をリラックスさせながらの指導」も意識すべきである。第1章の指導方法研究の実践の記録である。

第3章はリコーダーに関係するものだけを抜粋した。現代社会の早い流れや，情報過多に対応出来る，授業の発想の転換・工夫・改善等が求められていないだろうか。マンネリ化した授業になっていないだろうか，自分自身への反省を込めて記述した。

第4章は"音"を通した指導方法の工夫である。第1章の「音以外の指導方法の工夫」に対応したものである。ここでも基礎指導に焦点を絞っている。次への課題としては教材を通した指導の工夫の研究がしてみたい。教材を通して生徒の変化を求めてみたい。良い教材，すなわち①生徒が喜んで学習する，②飽きない，③感動するものがある等，教材の選択の研究をしてみたい。全体的には技術的な内容が中心になったが，次は生徒の心情面も考えた指導方法を模索してみたい。

Ⅶ おわりに

戦後，日本（沖縄）の学校現場にリコーダーが導入されてはや数十年になる。これまでにも導入が試みられ，指導されてきた楽器は多数ある。「鍵盤ハーモニカ」「ギター」「ハーモニカ」「電子楽器類」「アコーディオン」他……。どの楽器もそれなりに効果をあげてきたし，現在でも愛用されているのも多い。しかし，リコーダー程全国各地で永年にわたり大事に扱われ，現在に至っている楽器はないのではなかろうか。それだけ教育的な価値が高い楽器だからである。

私がリコーダーの指導方法に興味を持ってもう何年になるのだろうか。転勤を機会に指導方法の工夫の試みをしたことは確かである。その都度生徒の反応に満足感を感じたり，失望したりの連続で現在に至っている。「教育」の言葉の意味を深くかみしめ，生徒の心に残る指導を心掛けたい。

参考文献・資料

(1) 沖縄県リコーダー教育研究会編　第18回全日本リコーダー教育研究会全国大会（沖縄大会）紀要　1990年

(2) 柳生　力　著　感受性はどこに　音楽の友社　1985年